

歩行者の誘導のしかた

◎ 基本的な心得 ◎

1. 権限行使ではない

交通の指導をする人は、自動車を止める特別の権限はないので、一般的には

- ① 歩行者の安全のため、運転者の協力を得て、一時止まってもらう。
- ② 横断歩道では自動車に対し、これから横断しようとしている歩行者があつて、道路交通法上の義務として一時停止しなければならない状態にあることを知らせるための合図を送る。

といった考え方が基本であると心得ておく。

2. 車の切れ目をよく見る

旗を出して自動車を止めるのではなく、自動車の切れ目を見て、歩行者を渡らせるように心がける。

3. 車は急には止まらない

自動車はすぐには止まらないので、その目の前に急に旗を出したりすると危険です。自動車との間に相当の余裕がある距離を見て旗を出す。

4. 暴走車に注意する

旗を出してからも、暴走する自動車があるかどうかをたえず注意し、安全を確かめてから歩行者を渡らせる。

5. 決断力をもってあたる

慌てたり、ためらって、中途半端なことをするのは最も危険です。正しい判断によって、はっきりした動作をすることが大切です。

6. 時間に遅れそうになる歩行者に特に注意する

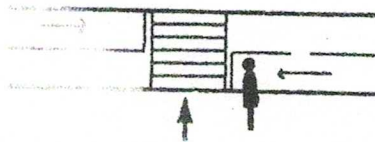
時間に遅れそうになった歩行者は先を急ぎ、安全を確かめることがおろそかになるので、特に見守ってあげるようにする。

◎ 事前の準備 ◎

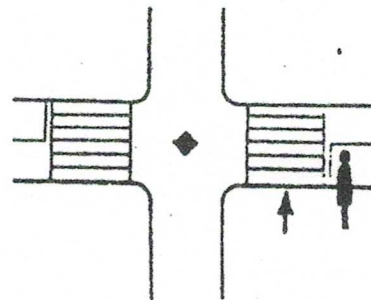
1. 現場に到着したら、まず横断歩道付近の道路状況を調べ、見通しを悪くしている（運転者から、横断歩行者が見えにくい、こちらから近づいてくる車が見えにくい）駐車車両や物件があったら、かたづけてもらい、交通環境を良くしてから指導する。
2. その日の天候、季節、曜日等によって、自動車やバイクの台数、スピード等が変化しますので、しばらく交通の状態を観察して、交通の流れにあった誘導方法を考える。
3. 横断整理旗は、少なくとも全長が1.5メートルはあり、なるべく旗の面積の広いものを準備することが大切です。

◎ 誘導の位置 ◎

1. 歩道のあるところでは、車道側の歩道の端に、歩道のないところでは、道路のいちばん端に立つ。これは指導する人自身の事故防止のために大切なことです。
2. 現場の道路の状況等から見通しが十分でない場合には、見通しのきく最小限のところまで出るが、この場合でも道路の中央には出ないようにする。
3. 単路と十字路



車の走ってくる方の側に立つ

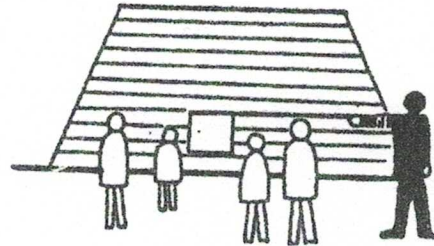


歩行者が通行する側の横断歩道に立つ

◎ 誘導の手順 ◎

次の手順は信号機がないか、警察官等が交通整理をしていない横断歩道で、歩行者が集まってくる側の右端に立っている指導する人を対象としたものです。したがって、2人以上指導する人がいる場合には、その位置によって手順の左右が反対になる。

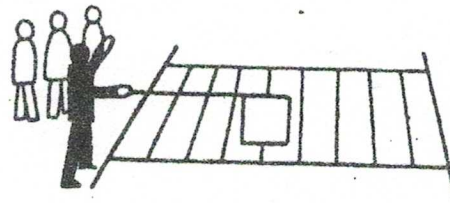
1. 道路に平行して立ち、旗を左手に持って、左横に水平に出し、歩行者が横断歩道に入るのを止めておき、車の流れをよく見て、適切な機会を待つ。



2. 歩行者がある程度まとまり、車の切れ目が見えたときに、リーダーの笛の合図《車に対する注意の合図ピーツ(1秒)、ピー(4秒)》で、旗を右手に持ち替え、前方に45度の高さにあげて出す。

これは、『これから歩行者を渡らせませよ』という意思表示です。

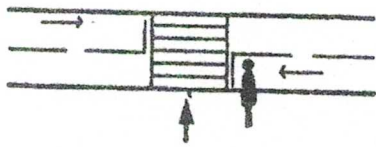
この場合、左手を左横に出し、手のひらを待っている歩行者のほうに向け、飛び出す者がないように制止しておく。



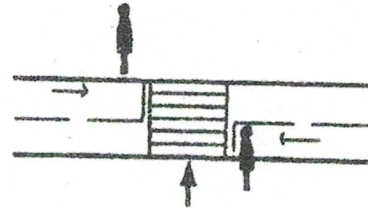
3. リーダーの笛の合図《車に対する停止合図ピー(2秒)》で、旗を水平に降ろして車を止める。この場合、旗を出しても車がすぐには止まらない場合もあることを考え、注意の合図で、車が徐行しはじめたのを確かめたうえで、旗を出すようにする。
4. 車が止まるのを確かめるまで、左手で歩行者に対し横断しないように合図をしておき、「まだ渡ってはいけません。」「待っていなさい。」等と言葉でも注意する。

4. 指導する人の数と位置

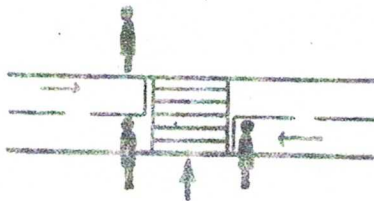
一人の場合



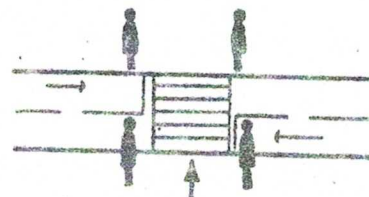
二人の場合



三人の場合

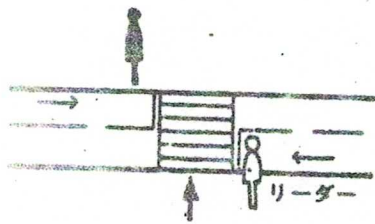


四人の場合

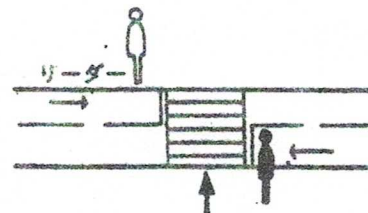


◎ リーダー ◎

1. 指導する人が二人以上いる場合には、歩調をあわせて誘導するため、リーダーを決める。
2. 他の者は、リーダーの旗の動き、笛の合図にあわせて誘導する。
3. リーダーの位置は、場所によってことなるが、基本的には歩行者はもちろん通行車両がよく見える地点が最適です。



リーダーが、歩行者を直接自分の側に集め、指導するという利点がある。



歩行者が集まる状態や自動車の通行状態等を総合的に観察判断できる利点がある。